

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

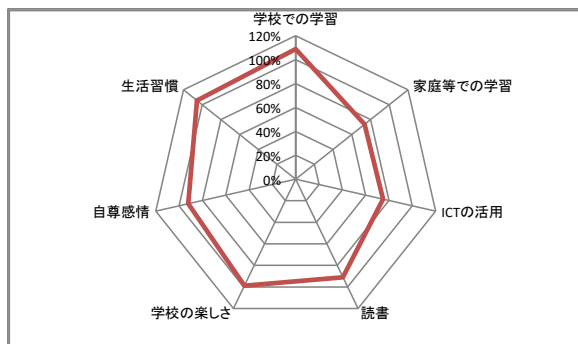
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.9 | 64 | 9.8 | 61 | 10.4 | 61 |
| 全国 | 9.2 | 66 | 10.1 | 63 | 10.8 | 63 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 思考力判断力表現力等を問う問題の正答率がやや低い。中でも「読むこと」の領域からは叙述を基に人物の気持ちを捉えることや文章の相互関係を考える問題などで苦手傾向がうかがえる。「書くこと」の領域は他の領域に比べて低いものの全国平均を上回り、文章全体の構成や書き表し方に着目して、文や文章を整えることが概ねできているといえる。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | 知識及び技能の我が国の言語文化に関する事項 | |
| | 努力が必要な問題 | 問題形式記述式 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 思考力判断力表現力等を問う問題の正答率が他の観点に比べて低いものの全国平均を上回り、数と計算の領域でやや高い正答率となっている。変化と関係の領域は正答率が最も低い。ただ全国平均よりも上回っている。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よってきた問題 | 数と計算領域 | |
| | 努力が必要な問題 | 変化と関係の記述式 | |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 思考力判断力表現力等を問う問題の正答率が全国平均よりも下回っている。領域別では「生命・地球」の正答率が全国平均よりもやや低くなっている。「エネルギー」「粒子」の問題の正答率はやや高くなっている。 | 全国平均正答率との比較 同程度である |
| | よってきた問題 | 「生命」を柱とする領域の短答式 | |
| | 努力が必要な問題 | 「地球」を柱とする領域の記述式 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ等の接触時間は減少していたが、3時間以上の長時間の利用の割合は増えていた。 ・スマホ・携帯電話の所持率が増加したが、「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組により、2時間以上接触している児童の割合は減少した。 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

思考力判断力表現力を高めるために、日頃の読書活動を充実させるようにする。特に取り扱う本については、漫画やクイズのような本を含めず、読解を主とする物語・伝記のジャンルから選択して読書にチャレンジできるように全職員で課題共有のもと、効果的に取り組んでいけるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を継続し、学習時間の見直しや学習の計画的な取組ができるように学びチャレンジハンドブックを積極的に活用する。一人一人の学習計画表作成のためにサポートできるシートを配布するなどして、家庭学習の充実が図れるようにする。